

気力あふれる児童の育成

一 自己肯定感を高め、自己効力感を養う取組をとおして 一



- 学校名 三郷市立彦成小学校
- 所在地 三郷市彦倉1-133
- 電話番号 048(952)1265
- E-mail アドレス hikonarisho@edu.city.misato.saitama.jp
- HP <http://www.edu.city.misato.lg.jp/hikonarisho/>

1 研究主題

(1) 研究主題

気力あふれる児童の育成

一自己肯定感を高め、自己効力感を養う取組をとおして一

(2) 研究主題設定の理由

本校は、体育の研究を始めて今年度で42年目となる。体育経営で培った「学習規律」を基盤に、学力向上を目指し、「文武両道」を掲げて教育活動を進めてきた。今年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果を分析したところ、国語においては「学力の伸び」は5・6年共に県平均を上回る成果を見せた。しかし算数では、「学力レベル」、「学力の伸び」共に県平均には少し及ばなかった。また、その分析の中で、「学力レベル」と「努力調整方略」「非認知能力」の数値には相関関係があることが分かった。

【本校の学力レベル】

学年		国語			算数		
		H31 (平均)	R2 (平均)	学力の 伸び	H31 (平均)	R2 (平均)	学力の 伸び
5年	埼玉県	5-A	6-A	3	5-B	6-C	2
	本校	5-B	6-B	3	5-C	5-B	1
6年	埼玉県	6-B	7-B	3	6-B	6-A	1
	本校	6-B	7-B	3	6-C	6-B	1

【伸びた児童の割合】

学年	国語		算数	
	県平均	本校	県平均	本校
5年	82.1	88.6	65.3	65.8
6年	87.3	89.3	61.1	60.2

【学力レベルと努力調整方略、非認知能力の相関関係】

4年生			5年生			6年生			
学力 (レベル)	努力調整 方略	勤勉性	学力 (レベル)	努力調整 方略	自制心	学力 (レベル)	努力調整 方略	自己 効力感	学習意欲 (算数)
7~6	4.2	3.3	8~7	4.4	4.1	9~8	4.3	3.7	3.7
5	4.2	3.3	6	3.9	3.8	7	4.2	3.5	3.7
4	3.5	3.0	5	3.7	3.9	6	4.1	3.4	3.4
3以下	3.4	2.9	4以下	3.6	3.5	5以下	3.7	2.9	3.3

そこで、「学習方略や非認知能力向上は学力向上につながる」と仮定し、中でも学力向上に大きく寄与するだろうと推測される「努力調整方略」「自己効力感」に重点を置いて学力向上を図ることをねらいとし、本主題を設定した。また、それらの重点においては、算数の授業だけでなく、体育や他教科の授業においてもより意識した授業展開を行い「学級経営力」の向上を図り、「学力向上」につなげていきたい。

2 研究の実践

(1) 授業に係る取組

ア 意図的習熟度別授業の取組

埼玉県学力・学習状況調査の結果より、算数の指導教室を以下のように設定した。

Aクラス	学力Aグループ
Bクラス	学力B・Cグループ
Cクラス	学力Dグループの上位 60%
Dクラス	学力Dグループの下位 40%

算数研究部において、学校で統一した「授業の進め方」を作成し、4年生以上で実施した。Aクラスにおいては、児童達が話し合いながら練り上げ、まとめていくことやレベルの高い適用問題に取り組むなど「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開を行う。Cクラスにおいては、解答に至るまでの活動の見通しをスモールステップで持ち、自力解決の時間を多くすることで、諦めずに最後まで解答しきることや適用問題を意欲的に取り組めるようにする。ステップアップ式に出題し、自力で最後まで解答しきることをねらうなど、「努力調整」のための能力向上を意識した授業展開を行う。Bクラスにおいては教科書の内容をスタンダードに、Dクラスにおいてはドリル学習を取り入れながら基礎力向上をねらうなど、4つのクラスで意図を持って授業を展開することとした。

	A	B	C	D
分け方	算数課の学力A	算数課の学力B・C	算数課の学力Dのうち、上位60%	算数課の学力Dのうち、下位40%
ねらい	主体的・対話的で深い学び	教科書の内容の定着	「算数」のコントロールと学習意欲の向上	基礎力向上
手立て	・児童間の練り上げ ・レベルの高い適用問題		・見通しを持たせる ・自力解決の時間確保 ・ステップアップ式の適用問題	・ドリル学習
1. 本時の課題を知る。	1. 本時の課題を知る。	1. 本時の課題を知る。	1. 本時の課題を知る。	1. 本時の課題を知る。
2. 本時の課題を把握する。	2. 本時の課題を把握する。	2. 本時の課題を把握する。	2. 本時の課題を把握する。	2. 本時の課題を把握する。
3. 自力解決をする。	3. 自力解決をする。	3. 自力解決をする。	3. 自力解決をする。	3. 自力解決をする。
4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。	4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。	4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。	4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。	4. それぞれの考えを話し合い、共通点を明らかにする。
5. 本時のまとめをする。	5. 本時のまとめをする。	5. 本時のまとめをする。	5. 本時のまとめをする。	5. 本時のまとめをする。
6. 適用問題に取り組む。	6. 適用問題に取り組む。	6. 適用問題に取り組む。	6. 適用問題に取り組む。	6. 適用問題に取り組む。
7. 本時の学習を振り返る。	7. 本時の学習を振り返る。	7. 本時の学習を振り返る。	7. 本時の学習を振り返る。	7. 本時の学習を振り返る。

【別紙参照】

イ 振り返りチェック10 3・9 (Thank you) シートの活用

本市教育委員会作成の「三郷市の授業づくり 振り返りチェック10」を基に、適宜授業の振り返りを行っている。教師自身もしっかりと授業の振り返りを行うことで、「PDCAサイクル」を推進し、より良い授業展開につながることを意図している。また、今年度は「振り返りチェック10」の中の「3 本時のねらいや課題を明確にし、学習の見通しを持たせ導入している」と「9 振り返りの場で学習内容の定着を図り、次の学習につなげる」に焦点を置いた「3・9 (Thank you) シート」も作成され、より明確に「ゴール」を意識した授業展開を行うよう努めた。

項目	達成状況
1. 本時のねらいや課題を明確にし、学習の見通しを持たせ導入している。	達成
2. 振り返りの場で学習内容の定着を図り、次の学習につなげる。	達成
3. 本時の学習を振り返る。	達成
4. 児童間の話し合いや発表を促している。	達成
5. 児童の考えや学習の様子を記録している。	達成
6. 児童の学習の様子を記録している。	達成
7. 児童の学習の様子を記録している。	達成
8. 児童の学習の様子を記録している。	達成
9. 児童の学習の様子を記録している。	達成
10. 児童の学習の様子を記録している。	達成

教師の指導項目	児童生徒の姿	評価
① 活動時間確保のため、導入（原則5～7分程度）を強固に行っている。	教師の指示に従い、集中して話聞いている。	
② 導入では興味・関心を持たせるための工夫（生活経験・打・発問等）をしている。	身近な生活や事象と関連付けて考え、「やってみよう」と意欲が高まっている。	
③ 課題（本時で何を学ぶか）設定までの発問が分かりやすく、精選されている。	既習事項との違いに気づくなど、本時の課題を理解し、発問に答えようとしている。	
④ 課題（問題）解決までの見通しを持たせるために分かりやすく説明している。	自力解決（どのように進めるか）に向けて行う活動を理解し、すくに働いている。	

教師の指導項目	児童生徒の姿	評価
① 課題に正対したまとめをさせている。	自分や他者の考えの良さを理解し、課題に対して、自分の考えをまとめられている。	
② まとめ・振り返りの時間（5～10分程度）が確保されている。	本時の学習（何を学んだか）を整理する時間がある。	
③ 練習問題など、本時の課題に正対した振り返りさせている。	練習問題により、向上したことや学びの良さを生かして、振り返りに取り組んでいる。	
④ ねらいの達成を見届け、新たな課題や問いを発見させ、次時につなげている。	意欲が湧き、できあがりになったことを実感し、次時への意欲が高まっている。	



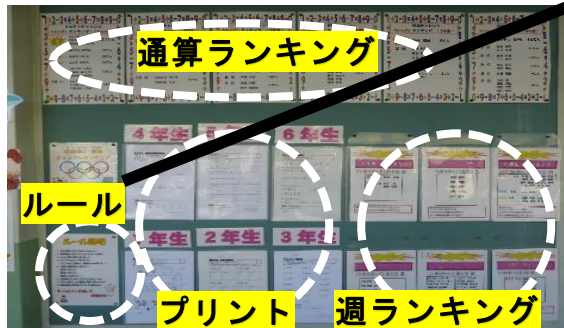
ウ 全学年研究授業

教師の教材分析力、指導力向上の最善の手立ては、研究授業であると考えます。本校は毎年、「各学年1研究授業」を掲げ、全学年が指導者を招いた研究授業を行っている。また、校内研修において、全体で各学年の教材分析、模擬授業・指導案検討会を行っている。自学年以外の教材分析、指導案検討を行うことで、横だけでなく縦の系統性を意識した深い教材理解を培うことをねらいとしている。

(2) 授業外に係る取組

ア 算数チャレンジランキング

職員室前の廊下に「算数チャレンジランキング」コーナーを設定した。算数への学習意欲向上を意図し、右のようなルールで実施している。プリントは週ごとに替わり、獲得したポイントに基づいたランキングを学年ごとに掲示している。



ルール説明

- 1 自分の学年のポイントを持っていきましょう!
- 2 毎週日曜日に新しいポイントをファイルに入れます!
- 3 できたら担任の先生に出しましょう!
- 4 チャレンジするだけで1回1ポイント!
チャレンジは1人3回まで! 4回目からは0ポイント…
- 5 1回目で全問正解なら3ポイント!
2回目で2ポイント!
3回目で1ポイント!
4回目からは0ポイント…
- 6 1発合格の人にはボーナスポイントがあるかも。
- 7 ポイントが高くなったら職員室の先生に声をかけてね!
- 8 毎週火曜日に各学年のランキングを掲示します!

**チャンピオン目指して
頑張るぞー!**

イ パワーアップ教室

昼休みに、各学年の算数を苦手としている児童を対象に「パワーアップ教室」を実施している。「四則計算」に苦手意識を抱えている児童が多く、立式は出来ても計算でつまづいてしまうという場面がしばしば見られた。そのため、計算の技能向上に焦点を絞り、算数少数担当を中心に実施している。



ウ 家庭学習の充実

本校にはPTA組織の中に、「家庭教育部」が組織されており、家庭学習の仕方やルール等が記載されている「家庭学習の手引き」を発行していただいている。また、今年度は全学年共通の本校独自の「家庭学習カード」を作成した。内容とかかった時間等を見て、集中して家庭学習ができているかどうかを教師が見届け、助言することで、より質の高い学習ができることを意図して行っている。

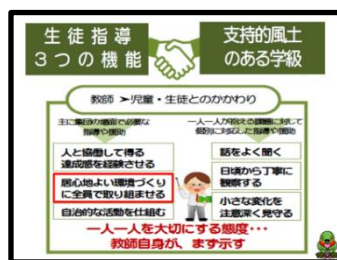


日付	内容	時間	合計	保護者印	担任印
			分		

(3) 研修

ア 三郷市「教師の心得」研修会

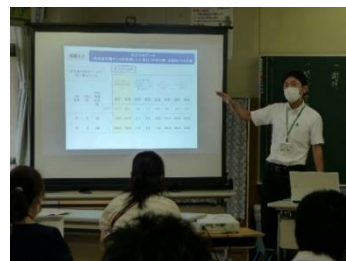
学習方略や非認知能力の向上は、授業の質の向上よりも日頃の「学級経営」の質の向上に拠る所の影響は大きいと考えられる。また、本校は、経験の浅い教員が多く、「学習規律」を徹底していく上で、不安を抱えている教員も多にいる。そのため三郷市教育委員会の指導主事による「教師の心得」研修会を実施した。「学級経営」の基礎となる「学習規律」を児童に確実に定着させるための教師の関わり方や具体的な指導方法等の御指導をいただいた。



イ 学力・学級経営力向上研修会

7月に県教育局市町村支援部義務教育指導課主任指導主事 藤井真仁先生による、埼玉県学力・学習状況調査の帳票の見方、分析の仕方に関わる研修を実施した。目指す児童の姿や調査結果の生かし方について講義いただき、今後、研修を推進していくにあたって本校職員にとって貴重な研修となった。

また、10月には、県教育局東部教育事務所学力向上推進担当指導主事 木村優二先生による「学力向上に係る学級経営力の向上」をテーマに研修を実施した。具体的に「良い学級経営とは？」という抽象的であったり、見解に個人差が生まれやすくなる内容について、実際に効果的な事例等を挙げていただき、具体的で分かりやすく、大変有意義な研修となった。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

全学年1研究授業を行うことで、教師の教材研究力や指導力の向上につながり、教材・教具・指導法の工夫が見られる「おもしろい授業」が増え、それに伴い、意欲的に授業に取り組む児童が増えた。また、改善した家庭学習カードを教師が効果的に活用し、児童の家庭学習の質の向上だけでなく、計画的に集中して学習に取り組めるようになり、学習量の向上にもつながってきている。

(2) 課題

各種調査の結果において、県平均に達している4年生に比べて、5・6年生の無解答率の高さが目立った。「自己効力感」を醸成し、諦めずに最後まで問題に取り組む児童を育てていきたい。また、学力層に関して、A B C Dの4つの学力層においてBグループの割合が小さく、Cグループの割合が大きい。学力の二極化を改善するために、意図的習熟度別授業に力を入れて、授業を中心に学力向上を図っていく。